

光真寺・迦葉山弥勒寺参拝旅行

善光寺恒例、本寺光真寺（栃木県大田原市）への参拝バス旅行が、七月二十四日～二十五日に実施された。

参加者は熊谷総代以下総勢四〇名。



初日、小雨模様の東北道を北進、昼前光真寺（大田原藩主の菩提寺）に到着参拝。心温まる地元特産品の接待を受けたあと、東北道・関越道経由で上州猿ヶ京温泉へ。湯量が豊富なことで有名な名湯で、点在する露天風呂に小雨の中蓑笠をかぶつて

— ニュース・アラカルト —



の入浴は格別な風情。夕食は名物の豆腐料理を堪能。

翌日は晴天に恵まれ、日本一の天狗面で有名な迦葉山弥勒寺を参拝。樹齢千年を超えた杉の巨木に囲まれた境内を散策。

帰途沼田IC近くのきのこ園では採れたての茸汁で舌鼓をうち、昼食後は初めてのブルーベリー狩りを体験。パック一杯のお土産付に参加者一同感激。渋滞に巻き込まれる事もなく、夕方全員無事横浜へ。

今回のバス旅行の車中では、小田原成願寺の山口老師及び光真寺徒弟の黒田法正師から漢詩の解説、石原裕次郎の法事裏話、光真寺の歴史等ユーモアを交えた興味深いお話を伺い有意義な二日間でした。

今回の旅行に参加出来なかつた檀家の方々、次の機会には是非御一緒出来る様切望します。

枝 博久 記

—ニュース・アラカルト—

スリランカ津波災害支援訪問記

鳥居 秀行

「まだ被害の復旧に至っていない。精神的にも癒えない。スリランカの現地に入つたのは、日本を發つて二十一時間後、到着時よりテレビや新聞記者が追い続いている。私の存在はこんなにも大きいことなどと再認識する。

「待つてているのは、子供たち」、学校は形をとどめているが、勉強する環境にはなかつた。お寺の住職、地域の市当局の方々が、「これは日本の善光寺や市民の厚いお心遣いと支援の贈物」だと説明される。子供たちは、合掌、合掌、アリガトウの連呼。胸が熱くなる。

この光景と感動をご協力いただいた方々に、どう伝えるか。「コトバ」が思いつかなかつた。贈物は、私の手ひとり、ひとり手渡した。

カバン、ノート、筆記用具、教科書など、ささやかではあるが、よろこびは地球の重さ、周辺は、まだ極悪な境遇に耐えて、忍んでいる惨状はあまりにきびしく、表現できない。二〇〇三年先住方丈さまと当地訪問大歓迎のお返しの一部という思いが実現につながった。地域の石屋さん、そして善光寺さんご賛同いただいた方々に感謝と報告を申し上げたい。

—ニュース・アラカルト—



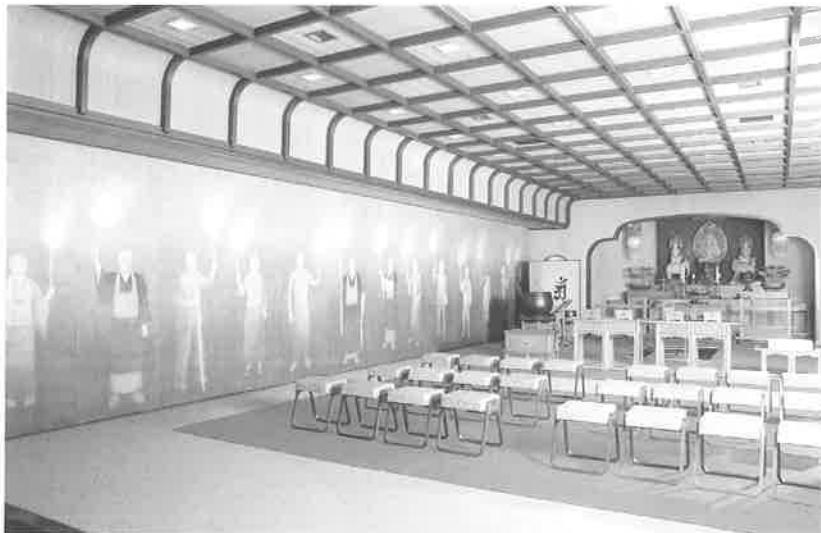
水墨壁画「十六羅漢成寿」を奉納

平成十八年七月、善光寺に左右十六メートルに及ぶ巨大な水墨壁画が奉納されました。

この作品は先代武志方丈と親交のあった水墨画家の東野光生氏の作によるもので、武志方丈の生前から氏が依頼を受けていたものです。東野氏の作品が善光寺に納められるのは二度目で、この「十六羅漢成寿」も二部作の一つとして、前作「臨照図」に続く作品です。東野氏は「天・地・人」をモチーフとする構想を固め、この「羅漢図」そのなかで「人」をテーマにしたものですが、なかなか構想がまとまらずに時間が経過していました。

そんなときに武志方丈の急逝の報に遭い、東野氏には新しい構想が生まれました。武志方丈の遺稿「草鞋萬里／海内開縁／大志無尽／成寿

— ニュース・アラカルト —





—ニュース・アラカルト—

「厳然」に表されている方丈の生涯を縁のある人々とともに描いたものです。

真ん中に正面を向いて立つ武志方丈を中心には、国籍や出家在家も異なる老若男女がたたずむ構図は、「身を削り人に尽くさん」の誓願に生きた武志方丈の理想がテーマになっています。「タイマツ」は法燈であり、また私たち一人一人の命の灯であり、未来への光明も表しています。それをすべての人が手に握っていることを表現しました」と東野氏は説明します。

この壁画は方丈の三回忌にお披露目される予定です。

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●
「京都 清水展」に博志方丈が森猊下を訪問

世界遺産にも登録されている京都清水寺。太祖瑩山禪師報恩顯彰碑の建立から善光寺との間に深いご縁が生まれました。「奥の院御本尊御開帳」を記念して「京都 清水展」が平成十八年三月二日から二十六日までの期間、横浜駅東口の横浜そごうにある「そごう美術館」で開催されましたが、その初日の開眼法要で導師をつとめられる清水寺貫主森清範猊下からご招待をいただき、先代方丈夫人倫子さま、博志方丈ほか四名で「京都 清水展」を訪問し、森猊下から温かいお言葉をいただきました。

— ニュース・アラカルト —



高松寺にて福田孝雄老師が晋山式

去る平成十八年十一月四日に育英会の参与で
もある福田孝雄老師の晋山式が、御白坊である
山形県山形市多幸山高松寺にて勤修されました。

老師は、先代方丈と駒沢大学大学院での同期
で、同大学にて長くサンスクリット語、ペーリ
語の教鞭をとられていましたが、この度、実兄
でもある先代住職の遷化に伴い同寺の第十九世
を拝命されました。高松寺先代住職の本葬の儀
もかねて慶弔会として盛大に執り行われ、当日
は近隣や法類のご寺院九十名、お檀家三百名が
来山され、善光寺からは博志方丈と育英会代表
として胡建明師が随喜しました。

—ニュース・アラカルト—

